

Perflow 加湿ボトル

取扱説明書

- 正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
- 取扱説明書は必ず保存してください。なくされた時はご相談ください。

——目次——

安全に正しくお使いいただくために

1. はじめに
2. 各部の名称
3. 現品の確認
4. 使用方法
5. 使用後の手入れ
6. 保守点検
7. トラブルシューティング
8. 仕様

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について
この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や財産への被害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

- 危険** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定され、かつ危険発生の警告の緊急性が高い内容を示しています。
- 警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
- 注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

- △記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
- 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が書かれています。
- 記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

危険	
・酸素の取出口、及び接続したチューブを塞がないでください。圧力が上がり、破裂するおそれがあります。	
・使用中は絶対に火気類を近づけないでください。激しく燃え、火災の原因となります。	
・油分は付着させないでください。発火の原因になります。	
・医療用酸素ガス以外は使用しないでください。重大な人身事故につながる場合があります。	
警告	
・破損した機器は使用しないでください。発火や機器の飛散の原因となります。	
・改造や修理は絶対にしないでください。正常な機能や安全を保てなくなります。	
・継手部よりガスが漏れている場合は、使用しないでください。発火の原因となります。	
・本器に過剰な外力を加えないでください。機器破損の原因となります。	
・加湿ボトルの蓋とボトルがしっかりと締められていることを確認してください（4-2項参照）。重大な人身事故につながる場合があります。	
・使用前には、必ずチューブ等を接続し、患者へ酸素ガスを供給する状態で所要流量が確保できていることを確認してください。重大な人身事故につながる場合があります。	
・使用前には必ず点検を実施してください。重大な人身事故につながる場合があります。	
・保守点検は必ず実施してください。重大な人身事故につながる場合があります。	
・点検で異常の発見された機器は絶対に使用しないでください。重大な人身事故につながる場合があります。	
・滅菌、洗浄、清掃は、本書をよく読んでから行ってください。プラスチック、ゴム部品が劣化し、機器破損の原因となります。	
・流量計は、当社製品を使用してください。チューブ等、接続部からの漏れの原因となります。	
・加湿水は、精製水（滅菌精製水）を使用してください。流路内が閉塞する原因となります。	
・加湿水は、水位線（上下限）内で使用してください。重大な人身事故につながる場合があります。	
注意	
・中性洗剤以外の洗剤は使用しないでください。プラスチック部品が劣化し、破損の原因となります。	
・ボトル内の加湿水は、常に清潔に保ってください。プラスチック部品が劣化し、破損の原因となります。	

■使用温度範囲

本器の使用温度範囲は、0～40℃です。ご使用時の周囲環境が使用温度範囲を超えますと、保証できません。

■使用しないとき

手入れ後、すぐに使用しないときは、所定の保管場所にて保管してください。
保管場所の条件：水のかからない場所であること。
温度、湿度等が著しく高くない場所であること。
振動等のない場所であること。
ゴミ、塵埃等が入らない場所であること。

■適用

本器は、医療機器に該当します。日本国内にてご使用ください。

1. はじめに

Perflow 加湿ボトルは、乾燥した医療用酸素ガスを水と接触させることにより加湿し、患者へ供給するための医療用吸入器です。
その他の用途には使用しないでください。

2. 各部の名称

本器の各部の名称を図-1に示します。

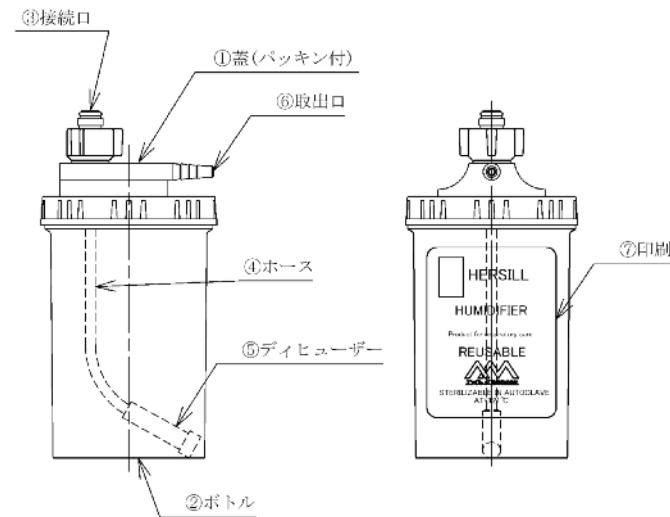


図-1

3. 現品の確認

収納袋（ビニール袋）より取り出し、以下の項目について確認してください。万一部品の不足あるいは破損、不具合などがございましたら、お買い上げの代理店へご連絡ください。

3-1. 部品の不足はないか（表-1参照）。

表-1

No.	名称	数量
1	加湿ボトル (ホース、ディヒューザー付)	1個
2	取扱説明書（本書）	1部
3	添付文書	1部

3-2. 輸送による破損および不具合はないか。
部品に割れおよび変形などの異常はないか。

4. 使用方法

4-1. 使用前の確認および準備

- 使用前には必ず、次のことを確認してからお使いください。
- 1) 本体が清潔であること。
使用の都度、洗浄し、清潔であることを確認してから使用してください。
(必要に応じて滅菌、消毒を行ってください。)
 - 2) ひび割れあるいはキズがないこと。
 - 3) 部品がそろっていること。
 - 4) 蓋①の内側のパッキンが外れていないこと。

4-2. 使用方法

- 1) ボトル②と蓋①を取り外してください。
- 2) ボトル②の水位線(上下限)内まで精製水(滅菌精製水)を入れてください。
- 3) ボトル②と蓋①をしっかりと締め付けてください。
取出口⑥が印刷⑦のおよそ中心にくる位置まで締め付けてください。
- 4) 接続口③を酸素供給側の機器と接続してください。接続部に緩みがないことを確認してください。
流量計は、当社製品をご使用ください。
- 5) 取出口⑥と患者又は他の器具へ接続してください。接続したチューブにねじれが無いことを確認してください。
- 6) 必ずチューブ等を接続し、患者へ酸素ガスを供給する状態で所要流量が確保できていることを確認してください。
- 7) 酸素ガスの供給を開始し、均一に気泡が出ていることを確認してください。
- 8) 使用後は速やかに本器を取外して手入れ(※)を行ってください。
※「5. 使用後の手入れ」を参照してください。
- 9) 手入れ後、すぐに使用しないときは、十分に乾燥させたのち、所定の保管場所にて保管してください。

《保管場所の条件》

- ◆ 水のかからない場所であること。
- ◆ 温度、湿度等が著しく高くない場所であること。
- ◆ 振動等のない場所であること。
- ◆ ゴミ、塵埃等が入らない場所であること。

5. 使用後の手入れ

- ボトル②内の水を捨ててください。
- 汚れ等が付着している場合は、洗浄し、汚れを落としてよく乾燥させて保管してください。また、必要に応じて滅菌をおこなってください。

■ 滅菌について

- 本器は、オートクレーブが可能です。汚れを落とし、必要に応じて以下の条件で滅菌を行ってください

温度：121℃
圧力：127kPa
時間：25分
オートクレーブ可能回数：40回

- ホース④とディヒューザー⑤は、滅菌が必要な場合毎に交換してください。

■ 消毒について

- 本器は、消毒が可能です。汚れを落とし、必要に応じて表－2の使用可能薬品で消毒を行ってください。

- ホース④とディヒューザー⑤は、消毒が必要な場合毎に交換してください。

表－2

一 般 名	商品名	使用濃度
グルコン酸クロルヘキシジン	ヒビテン マスキン液	0. 1～0. 5%
グルタルアルデヒド	ステリハイド	2%
塩化ベンザルコニウム	オスバン ジアミツール	0. 1%

■ 洗浄について

- ボトルの洗浄には、軟らかいスポンジを使用してください。たわしやブラシのような硬いもので洗浄すると、ボトルにキズがつき破損の原因となりますので、使用しないでください。
- 中性洗剤のみを使用し、それ以外の洗剤を使用しないでください。

- これらの部品は、ゴム、樹脂で構成されており、使用状況・消毒方法等により劣化度合に差が生じます。

6. 保守点検

安全および性能維持のために保守点検は、下記の項目について実施してください。万一故障が発見されたとき、あるいはご不明の点やご質問がございましたら、弊社またはお買い上げの代理店へご連絡ください。

- 耐用年数は2年間です。使用状況によって部品の劣化度合に差が生じ、場合によっては耐用年数に達する前に交換して頂くことがあります。
- 製造年月の読み方

例 “1 1 0 2” ……2011年 2月生産

生産月を01～12で表示しています。

生産年を西暦下2桁：00～99で表示しています。

6－1. 日常点検

日常、次の点をチェックしてください。

《使用前の点検》

- 接続部に緩み、ガタツキはないか。
- ひび割れあるいはキズが生じていないか。
- 加湿用精製水（滅菌精製水）は水位線（上下限）内に入っているか。
- 機器、および接続部から漏れはないか。
- 所要流量が確保できているか。

《使用中の点検》

- 取付状態が正常か。
- 酸素ガス供給時、ボトル②内のディヒューザー⑤から均一に気泡が出ているか。
- 機器、および接続部から漏れはないか。
- ボトル②内の水位は水位線（上下限）内に入っているか。
- ボトル②内の水は清潔か。
- 患者の状態に異常はないか。

《使用後の点検》

- 5項に従い手入れをしてください。
- すぐに使用しないときは、取外し、十分に乾燥させたのち、所定の保管場所にて保管してください。

6－2. 定期点検

安定した機能を確認するために定められた期間毎（3ヶ月毎）に定期点検を実施してください。

定期点検は、弊社またはお買い上げの代理店へお申しつけください。

点検内容：破損、漏れ、表示

6－3. 交換部品

本機器は、ゴム、樹脂部品で構成されており、使用状況により劣化度合に差が生じます。点検で異常があった部品は、表－3を参照いただき、新しい部品と交換してください。

表－3

No.	名称	使用部位
1	蓋本体	蓋①
2	蓋パッキン	
3	接続部Oリング	
4	ボトル本体	ボトル②
5	ホース	ホース④
6	ディヒューザー	ディヒューザー⑤

7. トラブルシューティング

このようなときは	ここをお確かめください
酸素が流れない。	<p>◆ 酸素用配管端末器（アウトレット）へ酸素供給側機器を正しく差し込んでいるか確認してください。</p> <p>◆ 機器、および接続部から漏れがないことを確認してください。</p> <p>◆ 取出口⑥に接続しているチューブが閉塞していないか確認してください。</p> <p>◆ 蓋とボトルがしっかりと締められていることを確認してください（4－2項参照）。</p>
取出口⑥から水が出てくる。	◆ ボトル②内の水の量が上限の水位線を越えていないか確認してください。
ディヒューザー⑤から泡が出ない	<p>◆ ホース④、ディヒューザー⑤がしっかりと組立てられ、蓋①内側の継手部にしっかりと差込まれているか確認してください。</p> <p>◆ ボトル②内の加湿水（滅菌精製水）の量が下限以上あるか確認してください。</p>

8. 仕様

一 般 的 名 称	非加熱式加湿器
販 売 名	Perflow 加湿ボトル
届 出 番 号	28B1X00001000007
外 形 寸 法	径87×高さ175 mm
質 量 （ 空 質 量 ）	約160 g
使 用 圧 力 範 囲	440kPa以下
使 用 温 度 範 囲	0～40℃（結露なきこと）
保 管 温 度 範 囲	-20～60℃（結露なきこと）

エアウォーター防災株式会社

AIR WATER SAFETY SERVICE INC.

神戸本社・本社工場

〒651-2271 神戸市西区高塚台3丁目2番地16

（代 表）TEL078-992-1400 FAX078-993-2076

東 京 本 社

〒141-0031 東京都品川区西五反田2丁目12番3号

（医療代表）TEL03-5435-7921 FAX03-5435-7915

（総務受付）TEL03-5435-7920

大 阪 支 社

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目1番3号

（医療代表）TEL06-6394-9521 FAX06-6394-9532

（総務受付）TEL06-6394-9520

中 部 支 社

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目5番15号

（代 表）TEL052-262-5371 FAX052-262-5375

札 幌 営 業 所

〒001-0010 札幌市北区北十条西3丁目1番地1号

N o b l e s s e S A P P O R O 4階

（代 表）TEL011-708-2325 FAX011-708-2326

仙 台 営 業 所

〒984-0031 仙台市若林区六丁目字南97番3号

（代 表）TEL022-288-5012 FAX022-287-3077

広 島 営 業 所

〒732-0814 広島市南区段原南1丁目3番53号

（代 表）TEL082-264-3565 FAX082-264-3568

福 岡 営 業 所

〒812-0895 福岡市博多区竹下4丁目7番27号

（代 表）TEL092-483-7510 FAX092-483-7513